

百味講たより

令和元年11月発行
発行所大本山増上寺
百味講報企画部
発行者 安部一郎

第24号

百味講講師の皆さま方には日頃増上寺に対し、ご理解・ご協力をいただいております事厚く御礼申し上げます。

二〇一八年七月二十三日お盆も終わり（静岡の大部分が七月盆です）ホッとしている中、友田上人（増上寺執事長）より電話を頂き、話があるので私の寺にお出でになるとの事、あまり聞きたくない話ではないだろうか？との思いを持ちながらお会いをさせて頂きました。

友田上人からの話は「君は教区の役職をこの三月で全て終わり暇になったのだから、出来ればこの九月から増上寺に来て浄土宗開宗八百五十年奉賛局の仕事を手伝ってほしい」との事、実はこの話を聞いた時「大変な事になってしまったな」という思いが正直なところでありました。この時は即答をする事が出来ずに後日返事をさせて頂く事に致しましたが、しばらくは重苦しい日々が自分の中で続いておりました。結果として現在、増上寺の事務所に於いて、私を支えてくれている四人のスタッフと仕事をさせて頂いております。

振り返れば早いものでアツという間の一年であり、わからない事ばかり、周りの人たちに支えられての一年でした。



部長
川村 一紀

浄土宗開宗八百五十年奉賛局 浄土宗開宗八百五十年奉賛局部長 を拜命して

今回、浄土宗では二〇二四年（令和六年）に法然上人が浄土宗を開かれて八五〇年を迎える訳であります。増上寺では八木台下直々に先頭に立たれ、関東に於ける、それも首都東京の中心に位置し、約六三〇年の寺歴を有するこの増上寺、その永い歴史の中に於いて浄土宗僧侶の育成を担い、伝法道場として確固たる地位を確立して来た増上寺、この増上寺を後世に残し伝えていかななくてはならないとの強い思いの下、この度の増上寺に於ける浄土宗開宗八百五十年慶讃事業がスタートした訳であります。

慶讃事業の中で、先送りの出来ない事業が二つあります。一つは三解脱門の解体大修理、もう一つは傷みの激しい約六〇、〇〇〇枚の大殿の瓦を、チタン瓦に総葺き替えする事業であります。

三解脱門の解体大修理は、国の重要文化財としての大修理であり、大殿の屋根瓦の総葺き替えは、お参りいただく全ての人々の安全を末永く確保するというところであります。

百味講の皆様方におかれましても、浄土宗開宗八百五十年慶讃事業に対しましてご理解、ご協力を切にお願い申し上げます。ご挨拶に代えさせていただきます。



大本山 増上寺 御用達 百味講

音響・映像
(有) ボブス
豊田 浩人
〒145-0067 大田区雪谷大塚町7-10-703
TEL 03-3729-5148 FAX 03-3729-5149

葬儀・式典企画運営
富士典礼
木村 光二
〒142-0031 品川区豊町4-3-17
TEL 03-5434-2210 FAX 03-5434-0860

葬儀のご用命は
古い信用・新しいサービス
(株) 牧野総本店
豊島 洋子
〒108-0074 港区高輪1-21-1
TEL 03-3445-0506 FAX 03-3445-0508

懐石料理
(株) 味ごよみ一心
廣中 久見
〒105-0011 港区芝公園2-6-8
日本女子会館1F
TEL 03-3438-1041 FAX 03-3438-1044

各種ご用命は
御本山御用達の百味講
各店へ！

創業寛政二年(1790年)八代目
(有) 石政石材店
眞田 貴志
〒108-0071 港区白金台4-5-7
TEL 03-3441-1483 FAX 03-3441-3156

思いとどける ころろ伝える。
(株) 日本香堂
小林 日出男
〒171-0014 豊島区池袋3-18-12
TEL 03-3973-7111(代) FAX 03-3530-1238

お花で思い出を永遠に
(株) 花 幹
三須 健
〒143-0024 大田区中央8-31-11
TEL 03-3755-2120 FAX 03-3754-4687

旅のことならすべておまかせください
東武トップツアーズ 東京法人 東事業部
茂呂 政明
〒103-0025 中央区日本橋茅場町2-10-5
住友生命茅場町ビル2F
TEL 03-6667-0593 FAX 03-6667-0568

Blank space for additional information.



洋菓子と共に70年

有限会社ポエム洋菓子店 安部 一郎

「百味講インタビューシリーズ」は、活躍する各講員に専門職ならではの経験談などを語っていただくコーナーです。第3回は、安部 一郎講元です。

Q まず、安部講元の生い立ちを伺いたいのですが？

私は昭和10年3月、三田の済生会病院で生まれました。今年で84になります。幼少の頃は戸越公園で暮らしていました。父は信州出身で砂糖問屋に菓子職人として勤めていました。戦争が始まり、小学生だった私は集団疎開で静岡県富士宮市移動しました。1年程した頃「こんな時は家族はバラバラじゃない方がいい」という父の考えで東京に戻りましたが、東京はやはり大変で、その後の東京大空襲で自宅は焼け出され、バラックでの辛い生活が続きました。終戦後、大岡山に移転。父は手に覚えがあるという事で進駐軍のペーカリーに勤め、パン、お菓子作りの他、将校のペースドレーキなども作っていました。中学卒業した私は、父にお菓子作りを学び始めます。

その後、父は赤坂に工場を借り、念願だった洋菓子のおろし業を始めます。私はお菓子作りの手伝いの他、配達を担当。自転車飛ばして新聞社などに配達していました。当時はまだ統制時代で、お菓子などは贅沢品。警察に捕まると没収されてしまう為、見つからないような道を選んで走った事を覚えています。戦後の復興期に入りだんだん忙しくなり、父の体調不良もあって、自宅を赤坂の店の前に移転。そこを起点にして昭和26年喫茶とケーキの小さなお店「ポエム洋菓子店」を出しました。ポエムという名前は「味の歌詞(菓子)」という意味から付けました。その後、店は赤坂という立地のためか食事の要望が多く、レストラン中心の経営に変わっていきます。私がやっていった洋菓子部門は、昭和50年現在の場所、蓮根に移転し、工場と小さなお店を運営。ここから赤坂に納品してました。昭和62年父が亡くなり相続税支払いのため赤坂をたたみ、現在の形になりました。

Q 増上寺の三縁クッキーについて教えてください。三縁クッキーは初めてから40年ぐらい経ちます。元々は、他のお店がクッキーを入れていたのですが、当時赤坂のお店によくいらっしやっついて執事だった藤木先生のお口利きでお茶菓子用クッキーを入れ始めました。その後、津田徳翁先生の発案で二連パッジになぞって一袋2つ入りにしておみやげ用を作り、現在の形となりました。

Q 百味講に入ったきっかけはどうか？

古橋部長からのお誘いで入りました。当時講員はまだまだ少なかったですね。今でも講員の太田法衣店さん、吉野法衣店さん、古島法衣店さん、山本さんの他、昔、講員だった岩田守成堂さん、花正さん、浜田商店さんぐらい。だいたい昔のことなので多少前後しているかもしれません。そこから参加20社を目指して頑張っています。今は18社なんでもう少しですね。

Q 皆さんに一言お願い致します。

平成24年講元に就任して、早7年経ちました。身体も大変になって来ましたが何とか頑張っています。講元職はなんせ大変です。責任もあるし、御忌もある。皆様の前でのご挨拶もあります。でも良い仲間があるので職務を全う出来ています。今後も身体が続く限り頑張っています。皆様、今後とも百味講をよろしくお願致します。

表装・額装・襖一式
石森表具店
石森 一
〒108-0073 港区三田1-7-2-102
TEL 03-3451-3138

佛像彫刻・文化財保存修復
佛師 山本 築老和
山本 築老和
〒145-0063 大田区南千束3-28-5
TEL 03-3727-1122 FAX 03-3727-1122

仏壇・仏具
(株)安田松慶堂
星野 家康
〒104-0063 中央区銀座7-14-3
TEL 03-3542-5771 FAX 03-3546-2140

増上寺謹製・三縁クッキー
(有)ポエム洋菓子店
安部 一郎
〒174-0046 板橋区蓮根1-18-11
TEL 03-3966-2324 FAX 03-3966-2398

念珠・記念品
(有)平野屋営業部
井上 信男
〒113-0034 文京区湯島4-5-3F
TEL 03-3818-6501 FAX 03-3818-6508

浄土宗 袈裟・法衣専門
(有)吉野法衣店
吉野 輝雄
〒160-0012 新宿区南元町17
TEL 03-3355-2168 FAX 03-3355-2204

御袈裟・法衣専門
太田法衣店
太田 祥二
〒121-0076 足立区平野2-15-16
TEL 03-3883-3225 FAX 03-3883-1634

伝統の技 三代にわたる信頼
(有)古島法衣店
古島 浩
〒111-0041 台東区元浅草4-2-1
TEL 03-3842-1289

総合印刷
(株)エスプリ
阪本 順一
〒135-0033 江東区深川1-6-7
TEL 03-3641-1891 FAX 03-3641-1923

仏壇・仏具
(株)瑞祥浜田
浜田 明男
〒111-0042 台東区寿2-9-13
TEL 03-3844-9473 FAX 03-3844-5017

大本山 増上寺 御用 達百味講

新年会

百味講アルバム2019



執事長ご挨拶



講元ご挨拶



お練り中の講元



全員で

納涼会



豊島さんご挨拶



太田副講元の乾杯



赤羽課長ご挨拶

御 忌

「回顧」



百味講副講元 太田法衣店 太田 祥二

平成最後の年としてスタートした本年は四月三十日をもって「今上天皇」が退位され五月一日に皇太子殿下が新しい天皇に即位、同時に元号も「平成」から「令和」に改められました。「平成」の時代は近世になく戦争に巻き込まれない年月でしたが温暖化の影響でどうか自然災害、加えて日本を取り巻く多くのプレートの地殻変動による大地震が各地で多くの被害をもたらした悲惨な時代で有ったともいえましよう、新しい御代が平和で安穩に過ごせるようにと願うばかりでございます。

さて、百味講「講報」も平成八年に創刊以来、回を重ねて本年で二十四号を発行する事と成りました、私も四回目に寄稿となります。私は昭和十六年四月にご門前で生まれ育ちました、当時はご本山の門前町にふさわしく「中門前」「片門前」という町名が付いており、私の父は大門通りに面した「港区芝片門前一丁目二番地」でした、昭和三十年頃には街路樹に桜の木が植えられており、春には居ながらにして花見が楽しめたものです、幼少から成人までの二十数年間をすごしました、子供の頃、芝山内は格好の遊び場でしたし、昭和三十三年に完成した東京タワーの鉄骨が組み上がる様子を日々眺めながら過ごして来ました、いつの間にか歳を重ね昨年、喜寿を迎え少しずつ父の生涯に近づいて参りました、人は歳を取ると「懐古趣味」と申しましうか過ぎてきた昔を振り返り懐かしむようになるものがございます、

治初期に建てられた門前の店舗とその当時の当主の写真が古いアルバムの中から出てきました、幣店の歴史の一端として載せてみました、「過去に思いをはせたとて今日を生きる何の力にもならない」こんなセリフを何処かで見聞きしたような気がしています、要は今を、そして明日に向かって自身が掲げるわずかな高みを目指して過ごすことが大事なことと考えます。回し道をして三十才を過ぎてから家業を継いで四十五年、当初は判らないことばかりで、失敗やら恥をかくことがしばしば有りましたが、それの一つ一つ越えるたびに身に付いた事も多々有ったようです。

過般、平成二十七年も押し詰まった暮れの三十日の朝、突然の激しい雨で起き上がることでもできず救急搬送されました、検査の結果は「小脳出血」と診断され直ちに入院となり、翌年一月末には家族兄弟が集められ



明治五年頃建築の門前の店舗
大正十二年関東大震災にて消失



中嶋屋長右衛門法衣店
八世 太田長右衛門

人のこんな言葉を負いながら「さあ、もうひとふんばり」と思う日々でございます。

(完)

百味講アルバム2019

研修旅行



全員で



リベンジ成功!



山本副講元ご挨拶



ご機嫌な廣中さん

平成30年度百味講事業報告

自 平成30年3月1日
至 平成31年2月28日

| | | |
|-------|-----------|---------------------------------|
| 平成30年 | 3月 16日 | 講中護持会役員会 |
| | 29日 | 定期総会 「松杉の間」 |
| | 4月 4日 | 定例会、御忌供物準備会「天陽院」 |
| | 4月5日～7日 | 御忌大会（お練行列3座出仕） |
| | 4月 9日 | 御忌鉢洗い |
| | 4月15日 | 地藏尊慶讃大法要、お練参加 |
| | 5月7日～8日 | 研修旅行、草津方面 |
| | 15日 | 正五九祈願会「安国殿」 |
| | 6月21日 | 定例会兼本山課長と懇親会「つきぢ田村」 |
| | 7月 3日 | 講中役員会 |
| | 7月27日～28日 | 地藏尊盆踊り大会 |
| | 8月27日 | 百味講、定例会暑気払い「浅草 やっこ」 |
| | 9月15日 | 正五九祈願会「安国殿」 |
| | 10月16日 | 定例会「文化室」 |
| | 10月20日 | 講中懇親会 |
| | 11月30日 | 縁山流聲明と雅楽定期演奏会「大殿」 |
| | 12月 4日 | 講中役員会 |
| | 12月12日 | 講報23号発送作業 |
| | 12日 | 百味講忘年会「らん月」 |
| 平成31年 | 1月15日 | 正五九祈願会・互礼会「大殿・光撰殿」 |
| | 1月22日 | 百味講新年会「つきぢ田村」 友田執事長他、執事8名ご参加 |
| | 1月23日 | 節分追難式事務所開き |
| | 2月 3日 | 節分追難式・行列整備・当り券引換 |
| | 2月14日 | 円山隨身稻荷慶讃法要（二の午） |